

麦わらぼうし



撮影：角田市 令和8年4月21日

2ha超の大区画水田で水稻乾田直播栽培がスタート

水田農地の集積・集約や人手不足への対応策として、育苗の省力化と春作業の分散が図れる水稻の乾田直播栽培が注目されています。

令和8年4月に、角田市で乾田直播の播種作業が行われました。高速作業できるグレーンドリルを用いることで2.2haの大区画ほ場を約1.5時間で播種でき、農業者からは作業の速さを評価いただきました。

普及センターでは、乾田直播の普及と安定収量の確保に向け、技術定着を支援していきます。

令和8年度普及指導方針について

普及センターでは「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」等の県の計画を踏まえながら、地域農業における課題を明確にし、その解決のため体系的かつ継続的に活動を行うための方針を策定しています。

令和8年度の方針は以下の重点活動項目を掲げ、これらを基に普及活動計画を作成し、関係機関・団体との密接な連携のもと、地域農業の活性化に向けて積極的に普及指導活動を推進していきます。

- 1 仙南地域農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化
- 2 時代のニーズに対応した仙南地域の農畜産物の安定供給
- 3 仙南地域の多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

令和8年度 普及センタープロジェクト課題の取組

No. 1 経営継承後の農業法人におけるねぎ、うめの規模拡大と生産性向上

経営継承や園芸品目の導入により農業経営を安定させ、次世代に受け継ぐ事例が出てきており、栽培技術や法人運営の継続的な支援が必要になっています。角田市の株式会社館島田ファームDerohは、令和6年に農事組合法人から組織変更し、水稻の他、ねぎやうめの園芸作物の生産・加工に取り組んでいます。

普及センターでは、昨年度から、ねぎとうめの防除、せん定等の栽培管理指導や、水稻との作業競合の回避と適期作業の実践に向けた労務配分計画の作成等の法人運営支援を行っています。今年度は、さらなる収量・品質向上に向けて引き続き技術指導を行い、作業進捗や労務配分の管理体制の定着に向けてサポートしていきます。



【ねぎの作付け体系の検討】

No. 2 集落営農法人による農地整備を契機とした省力化技術の導入・定着

課題の対象である農事組合法人葉坂希望の郷は、農地整備事業が間もなく完了する柴田町葉坂地区の担い手法人です。

主な品目は水稻で、今後見込まれる労働力不足への対応として、湛水直播栽培や流し込み施肥等の省力化技術導入・定着に取り組むとともに、園芸品目の選定を進め、今年度も引き続き加工用トマトの栽培に取り組みます。さらに、運営の中心を次世代へ継承していくため、営農支援システムを活用し、事務作業の簡略化、役割分担や従事分量配当等のルール見直しを進めています。

普及センターでは、3年間の計画で、水稻、園芸品目栽培の省力化技術の定着と法人運営ルールの見直しを支援していきます。



【加工用トマトの育苗の様子】

No. 3 高収益作物(たまねぎ・さつまいも)の省力的な安定生産技術による規模拡大

当管内では、露地園芸の定着・生産拡大を目指しています。川崎市古閑地区ではたまねぎとさつまいもが導入されています。

たまねぎは、育苗の省力化に向け令和7年度の秋から直播栽培を開始しましたが、初期生育や雑草対策に支援が必要です。さつまいもは、規模拡大に向けた自家育苗の技術向上や適期作業の徹底が求められています。

こうした課題に対し、本年度はRTK（高精度測位）を活用したスマート農業による省力化を推進します。関係機関と連携し、機械化体系の構築と栽培技術指導を通じて、両品目の生産安定と規模拡大につなげていきます。



【RTKシステムを活用して定植したさつまいも】

No. 4 大区画化に対応した水稲乾田直播栽培の定着

角田市の農事組合法人さくらファームでは、ほ場整備を終えた高田萱場地区の大区画ほ場で、今年から新たに乾田直播に取り組みます。グレーンドリルを用いた播種その他、スリップローラーシーダーでの播種も行い、地域に合った栽培を検討しています。

また、村田町の農事組合法人Natureでは、数年前から乾田直播に取り組みしており、今後のほ場の大区画化に向け更なる技術向上を目指しています。

普及センターでは、これら両法人が安定した収量を確保できるように支援しながら、大河原管内の乾田直播モデルとして技術体系を確立し、広く技術の普及を図っていきます。



【スリップローラーシーダーによる4工程同時播種】

トピックス

地域計画のブラッシュアップが進んでいます

令和7年度は、地域計画を策定した管内49地区において協議の場が設けられ、目標地図の見直しや計画のブラッシュアップが図られました。中には、より具体的な話し合いを行うため、市町は事務手続きのみを担い、協議の場は農業委員会と地区の担い手だけで開催した地区もありました。

地域の農業を次世代に引き継いでいくため、今後も地域計画は毎年度更新していく必要があり、普及センターでは活発な協議がなされるよう支援してまいります。



【地域計画見直しの話し合い】

大河原地方振興事務所農業振興部及び大河原農業改良普及センターの担当業務の紹介

(大河原農業改良普及センター)

地域農業第一班 0224-53-3519

- ◆角田市、大河原町、蔵王町、七ヶ宿町の農業振興計画の支援
- ◆新規就農者（角田市、大河原町、蔵王町、七ヶ宿町）の支援
- ◆農業経営・就農支援センター（経営支援）に関すること 等

地域農業第二班 0224-53-3519

- ◆白石市、柴田町、村田町、川崎町、丸森町の農業振興計画の支援
- ◆新規就農者（白石市、柴田町、村田町、川崎町、丸森町）、女性農業者の支援
- ◆農業経営・就農支援センター（就農支援）に関すること 等

先進技術第一班 0224-53-3496

- ◆作物・畜産の生産技術 ◆経営支援、制度資金
- ◆農産物認証制度（作物） 等

先進技術第二班 0224-53-3431

- ◆野菜、果樹、花きの生産技術 ◆農産物利活用
- ◆農産物認証制度（野菜、果樹） 等

農業振興班 0224-53-3289

- ◆地域農業の調整
- ◆食と農の県民条例基本計画
- ◆米の需給調整
- ◆園芸特産振興
- ◆農業金融
- ◆肥料取締法 ◆農薬適正使用
- ◆農業環境保全
- ◆経営所得安定対策 等

調整指導班 0224-53-3516

- ◆農業振興地域の土地利用調整
- ◆農地集積・集約の推進
- ◆農業経営基盤強化促進対策
- ◆農地法 等

農地中間管理機構

農地中間管理事業に関する相談

お知らせと話題

リビングマルチの紹介

リビングマルチは、植物を畝間に播種して土壌表面を覆うことで、除草剤の使用量削減や土着天敵の定着促進による害虫防除に効果があるとされる技術です。環境負荷を低減する生産技術の一つとして現地への導入が進められています。

これまで、普及センターでは、たまねぎの現地ほ場にオオムギを播種し、リビングマルチとしての効果を実証してきました。

実証結果を参考に展示ほを設置するなど、今後も現地での普及を図っていきます。



【オオムギの播種の様子】

徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

農作業安全確認運動(春期)は、令和8年3月1日から6月30日まで実施されています。

農業現場では依然として死亡事故が多く、近年は高温の影響で熱中症による事故も増えています。事故を防ぐためには、機械作業の安全対策と熱中症予防の徹底が重要です。シートベルトやヘルメットの着用を徹底し、機械に乗る時は必ず安全フレームを立て、危険箇所での減速・迂回を心がけましょう。



【農作業安全確認運動について(県HP)】

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
 電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
 e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
 H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

